

E 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

※ 大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 清水幾太郎『論文の書き方』
- ・大問二 小川明子『ケアする声のメデイア ホスピタルラジオという希望』

三 左の文章は、『うつほ物語』の一節で、幼い「いぬ宮」が、秘曲伝授のために母（宮）のもとから離れて祖母

（尚侍）や父（大将）と楼に滞在し、祖母に琴を習う日々を書いた場面である。これを読んで後の設問に答えよ。

（解答はすべて解答用紙に書くこと）

（注1）

例の、夜さりの御台は、楼に参らす。大将、「苦しくや覚えたまふ。さはここに侍従ばかりは召さむよ」と聞

こえたまへば、「否。遊びをこそあらめ。なほこれを、宮の弾きたまふやうに、月の見ゆるまでこそ弾かめ」と

のたまへば、いとうれしと思さる。御台、下仕へ四人、取り続きで、裳、唐衣着て参る。上臈一人、前に三尺の几帳

さして、楼に上りて参らす。御賄ひは、例の大将仕うまつりたまへば、「あな見苦し。中納言、侍従を」との

たまへば、「何か」とて、賄ひ賄ひ参りたまふ。中納言は御衣かい取りて、参りて下りぬ。いぬ宮の御方にも、

同じきうるはしく、裳、唐衣着たり。乳母二人あり。大将取り次ぎて参りたまふ。御菓物ばかりを参りて、殊に

参らず。次に大将の居たまへる所に、かたちよく、髪長くて、髪一本に結ひたる男童の、よきほどなる四人、懸

籠にして、南の方の山の木の根に造りかけたたる反橋の方より参らす。少し下りたる高欄に出でて参る。絵に描き

たるごと面白し。

かくて、多くも弾き習ひたまひぬべけれど、ことさらに、ただ日に二つ三つを教へたてまつりたまひつつ過ぐ

したまふ。庭の山、前栽、いと面白くなりゆく。いぬ宮、南の山の方を見出だしたまひて、独り言に、「宮もろ

とも見え見せたまつらぬよ」とのたまふを、大将聞きたまひて、いとあはれと思して、「今この琴いによく習

はせたまひてむ時、渡りたまひて、もろともに御覽せむとぞのたまひし」とのたまへば、恥づかしうてももの

たまはず。夕暮れ、昼間などに、尚侍も大将もうち休みたまひて聞きたまへば、琴を習ひたまへる、いとになく、

いささか誤り違へたる所もなく弾きたまへり。二どころながら、いとかなしくゆゆしく覚えたまふ。

いかなる時にかあらむ、尚侍のおとどに、「下仕へをも召し、ちやを呼ばばや」と聞こえたまへば、召したり。

去年よりは殊に参らず。されど、うつくしがりたてまつりて、なほ参り馴らはしたりければ、あはれと思し、参

らせてしなりけり。琴弾き居たまへる御ほどの、またかかるを、大将、あはれに見聞こえたまふ。侍従来て、「御琴は弾かせたまへるべしや」と申したまへば、「弾きつべし。宮などのやうに、傍らかたはに置きて、常に今は弾きてむ」など語らひたまふなり。夜いたう更けたる月夜の、遥かに澄みたるに、二ところ弾き合はせたまひて、いぬ宮に同じ手を弾かせたてまつりたまふ。ただ同じ調べを弾かせたてまつらせたまふ。ただ同じごととなるを、うれしう、大将覺えたまふ。

(注) 1 夜さりの御台——夜のお食事。

2 侍従——侍従の乳母。いぬ宮の乳母。

3 遊びをこそあらめ——雛遊びなどをするわけではない。

4 御賄ひ——お食事の世話。

5 中納言——中納言の君と呼ばれる女房。

6 懸籠——外側のふちに懸けてはめ込むように作った小箱。

7 高欄——廊下や橋などに設けた欄干。

8 ちや——乳母の呼び名。

9 去年よりは殊に参らず——去年からいぬ宮は乳母の授乳を受けなくなった。

問

(A) ——線部(1)の内容として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 楼にいらつしやること
- 2 つらく思うこと
- 3 侍従がいななこと

4 悲しくないこと

5 聞こうとしないこと

(B) ~~~~~線部(ア)~(オ)のうち動作の主体が異なるものはどれか。一つ選び、番号で答えよ。

1 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 4 (エ) 5 (オ)

(C) 線部(2)の現代語訳を六字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(D) 線部(3)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 何のさしつかえがあるでしょうか。

2 何か問題が生じるに違いありません。

3 何か心当たりがあるのでしょいか。

4 何のためなのか思い当たりません。

5 何なら代わっていただけませんか。

(E) 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 果物を繰り返し注文しても少しも運ばれて来ない。

2 果物を寺社にお供えするので楼へいらっしやらない。

3 果物だけを差し上げて他のものは持参なさらなかった。

4 果物ばかりを召し上がって特に他のものは召し上がらない。

5 果物を召し上がるばかりで他の日課がおろそかになった。

(F) 線部(5)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 たくさんの曲をすでに習得なさっているに違いなければいけません。

2 たくさんの曲を早く教えていただきたいと願っているけれど

3 たくさんの曲を弾き習うことがおできになるに違いなければいけません。

- 4 たくさんの曲を弾き習おうとしても限界はあるだろうけれど
5 たくさんの曲を一度に教えることは禁じられているけれど

(G) 線部(6)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 見せてさしあげられないよ。
2 見せてさしあげられるよ。
3 見せてくだらないよ。
4 見せていただきたいですよ。
5 見せてさしあげるといいよ。

(H) 線部(7)の動作の主体として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 大将 2 宮 3 いぬ宮 4 尚侍 5 乳母

(I) 線部(8)は誰と誰を指すか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 尚侍と宮 2 大将と宮 3 尚侍と大将 4 宮と中納言 5 大将と中納言

(J) 線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 いとおしさは不吉さから来るとお思いになる。
2 悲しいだけではなく不吉でもあるとお思いになる。
3 悲しくても不吉でも気にしないとお思いになる。
4 愛らしさより不吉さが気になるとお思いになる。
5 不吉なまでにいとおしくお思いになる。

(K) 線部(10)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 じっくりしみ申し上げて
2 うつくしさを賞賛し申し上げて

- 3 しみじみと思いをお伝え申し上げて
- 4 きれいなものをお送り申し上げて
- 5 かわいさを忘れないと申し上げて

(L) 線部(a)～(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 受身
- 2 自発
- 3 可能
- 4 完了

- 5 意志
- 6 命令
- 7 詠嘆

(M) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ いぬ宮は尚侍の誕生日の祝賀で演奏するために琴の練習をした。
- ロ 尚侍は食事をしているところを人に見られたくないと思った。
- ハ 男童たちは南の山の景色を絵に描いて見せることでいぬ宮を慰めた。
- ニ 大将はいぬ宮の独り言を聞いていぬ宮をかわいそうだと思った。
- ホ いぬ宮は琴の練習に励んで尚侍から教わった曲を順調に習得した。

【以下余白】

